

「香港民主化運動と若者の温暖化阻止運動に期待する」 2020年2月20日

2月14日号の『週刊金曜日』に、私の投書が「論争」欄に掲載されたので、転載したい。

「2020年はどのような年になるのだろうか。日本も世界も、様々な意味で荒廃しているが、人間が尊重される時代になるように、心から期待している。次の二つのことに希望を抱いている。

一つは、香港の民主化を求める運動である。香港は英国の統治下にあったが、1997年に中華人民共和国に返還された。返還50年後に統一されるが、それまでは、一国二制度の特別行政区になった。ところが、中国の支配権が強まり、自由と民主主義が著しく侵される状況になった。これに反発した学生と市民は、容疑者を中国本土に引き渡す『逃亡犯条例』改定案の撤回や、デモを取り締まった警察官の暴力についての検証、本土からの干渉を受けないで行う自由選挙を要求している。香港政府は『逃亡犯条例』改定案は撤回したが、その他は認めず、本土の意向を頑強に貫こうとしている。抗議デモは半年以上も続き、百万人を超えるデモもしばしばである。中国は、経済では自由主義を取っているが、政治は共産党の一党支配による強権政治である。報道の自由度ランキングでは180ヶ国中、177位だ。共産党統治に反対しようものなら、直ちに逮捕され、行方不明の人もいる。本土支配に抗するデモは若者たちが中心で、市民の賛同を得ている。抑え込もうとする本土の力は絶大だが、若者たちは人間尊重の灯火で抗議デモを続けている。彼ら、彼女らの民主化運動に希望を見る。

二つ目は温暖化への若者たちの目覚めと主張である。温暖化によって、地球は痛めつけられている。太平洋の温度上昇によって、日本でも台風は年々大型化している。昨年のお二つの台風で100人以上の人が亡くなるなど、被害も甚大だ。北極の氷が解け、海面は上昇し、南の島々は水没の危機に晒され、水の都ベネチアの道路が海水で溢れている。米国、ブラジル、オーストラリアの森林火災は、手が付けられないほどの大火になっている。砂漠化が進み、シベリヤの永久凍土は溶け続けている。

これらの現象が温暖化によることは明白だが、米国のトランプ大統領は温暖化は『フェイク』であると無視し、『アメリカファースト』の経済成長を目指している。温暖化阻止のため、大きな国際会議が開催されているが、利害が交錯し、妙案を出せないでいる。国連本部で開かれた『気候変動サミット』で、当時16歳のグレタ・トゥンベリさんの『人々は死んでいます。生態系は崩壊しつつあります。私たちは大量絶滅の始まりにいるのです。なのに、あなた方が話すことは、お金のことや、永遠に続く経済成長というおとぎ話ばかり。よく、そんなことが言えますね』というスピーチは圧巻だった。世界中の若者たちは彼女に後押しされ、立ち上がっている。若者たちが主張し行動する姿に大きな希望を寄せている。」

国の指導者たちは、自国はいかに豊かで強いかを語り、自分たちの政策がいかに正しいかを吹聴することに熱心である。彼らは、戦火に怯えている者、迫害され生きる場を失った者、貧しくされた者などは、全く目に止まっていないようだ。かつて、韓国の軍事政権時代、「民衆神学」が起り、南米では「解放の神学」が起り、打ちひしがれた民衆が生きる権利を主張し、歴史の主体であろうとする下からの運動が盛り上がった。香港の民主化闘争、グレタさんに押された温暖化阻止は、若者たちが始めた未来を展開する、いわば民衆からの運動である。彼ら、彼女らの行動に期待し、支援したい。